

生徒が先生!?

牛一中「クリーンマスター」「クリーンインストラクター」 養成講座はじまる!!



「掃き掃除」編 こしを使ったそうじを解説

みごとインストラクターに合格!

「ふき掃除」編 笑顔でぞうきん絞り

クリーンマスターって何?

美化委員会と経営支援部による新しい企画として、楽しみながら役に立つ“掃除のコツ”を身に付けて(クリーンマスター)、そこで得た知識を生徒が先生役となって、他の生徒に教える(クリーンインストラクター)養成活動がスタートしました。

スタンプカードに、「ごみの分別」「拭き掃除」「掃き掃除」「モップ掛け」「トイレの使い方」の5つの講座受講のスタンプを集めると、「牛一中クリーンマスター」として認定書が授与されます。(トイレは掃除ではなく使い方? : トイレ清掃については、乾式トイレ清掃マニュアルを作成、掲示するなど美化委員会とともに以前から取り組んでおり、トイレ清掃には掃き掃除、拭き掃除、モップ掛けの要素が含まれるため)

マスターの次のステップとして、5講座全ての講師を務めると、「牛一中クリーンインストラクター」となり、全校朝礼での認定書授与と副賞として「牛一くんクリーンインストラクターピンバッジ」の贈呈があります。

そうじは生徒の学習機会

久保副校長先生考案の牛一くんピンバッジ→

私達主事が、環境整備をする事は当たり前前のことですが、掃除を通じて生徒が学べる事が山ほどあると感じています。皆さんは、毎日の清掃活動の15分間を、どのように過ごしていますか? 計算してみると累積で1週間で75分、1ヶ月で5時間、1年では50時間(夏休みなど考慮し10か月とする)、3年間でなんと150時間にもなります。

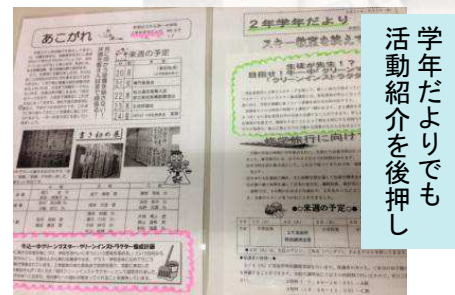


決められた作業の繰り返しで終わってるなんて、もったいない!!

担当したところをよく観察して「ここも掃除したら綺麗になるな」と気がついて、実際に行動に移している生徒がいます。

その生徒は、よく主事室に来ます。「スポンジがダメになっちゃいました」「ほうきのブラシを替えてください」「ちり取りのひもがありません」「ここを綺麗にしたいのですが、どうしたらいいですか?」などなど、書ききれないほどです。

よく気がつくので、周囲をよく観察しています。周りの人に気が付いて、だれにでも先に挨拶ができます。掃除という行為ではなく、綺麗にする事を目的に日々掃除をしています。



学年だよりでも
活動紹介を後押し



「ごみの分別」編 みんなで楽しく。



全員交代で、ぞうきん絞り



主事室前の案内板

目的を明確にして、観察、発見、工夫、実行、点検、改善する。
150時間にも及ぶトレーニングの積み重ねは、社会で「生きる力」
を身に付ける一助となるのではないのでしょうか？

生徒とのふれあいの中、ちょっとしたアドバイスをするだけで、みんな掃除が劇的に上手になります。コツや理屈が分かれば、応用は難しくありません。家の掃除をすることなく過ごし、ほうきもちり取りもない環境では、使い方が分からないのは当然のことかもしれません。

そこで、掃除のコツや発想の仕方を生徒に伝えよう、それも生徒から生徒に継承されれば未来の生徒達の役にも立てるのでは、そう考えてこの企画が生まれました。

そして、全校あげての取り組みへと発展出来たのは、赤沼校長先生をはじめ、この企画を全面的に支援下さっている久保副校長先生、美化担当の金杉先生、鈴木みのり先生、金井塚先生ほか事務室、主事室の経営支援部、また生徒会でも会報「若竹」への関連記事の掲載による協力、各学年担当の先生方による学年だよりへの掲載と生徒への呼びかけのおかげです。



生徒会誌「若竹」

そして、一番のキーパーソンであり、続々と初代「クリーンインストラクター」が誕生中の美化委員会のメンバーのおかげだと感謝しています。

工夫、改善の実行を柱に、進化を続ける活動に

何事も実行してみる事、チャレンジする事で新たな課題や改善点が生まれてくるものです。活動を始めてみると、「説明が長い」、「もっと受講生が自分で考える機会を増やしたほうがいいのでは?」、「VTRで例を示すのはどうか?」、「受講者以外の生徒にも、知っておいてもらった方がいい」など積極的な意見がたくさん出てきます。

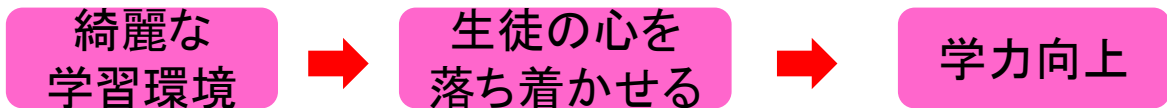
この気付きと提案こそが、この活動の狙いであり、今後美化委員会を中心に検討、改善を重ね実行する事で、常に進化を続ける活動に定着させてゆきたいと思います。

<みんなで考えるこの活動の2本の柱>

<その1 発想の仕方>



<その2 そうじの効果>



生徒会主催 奉仕活動「落ち葉掃き」

昨年までは、落ち葉掃きの日は1日のみでした。参加者は各部活動を中心に60名といったイベントでありました。毎年の反省点も翌年へ活かすとは難しいことでした。「道路に人が多過ぎて、通行の邪魔になっていた」、「落ち葉掃きが早く終わってしまい、やる事がなくなりました」、「通行する地域の方への挨拶ができていなかった」など。

しかし、今年は違いました。生徒会長を中心に、担当の小林先生、岩田先生とともに10日間行う事を決めたのです。参加者も20名程度に絞り、事前申請としました。

毎朝活動前には、今日の目標と前日までの注意点を、生徒会メンバーが交代で参加者に伝え、終了後には反省点を確認しました。この事で、「落ち葉掃き」はイベントから「地域貢献活動」へと発展できました。参加できた生徒にとっても、実りある活動になりました。

10日という期間は、毎朝みんなより早く登校して準備をした生徒会、早朝から生徒の安全を見守りながら参加いただいた校長先生はじめ教職員、皆勤賞で参加した人もいて活動を盛り上げてくれた生徒の皆さんにとっては、なかなかたいへんな事だったとは思いますが、それ以上に大きな成果を上げることができたのではないのでしょうか。



シリーズ挑戦「手作りのテーブルセット再生」

憩の中庭として、生徒に親しまれたテーブルセットも2年を経過したところで、風雨や乾燥、きのこの繁殖などによりだいぶ痛んできました。そこで、木の割れを補修、きのこの除菌などを行った上で、ウレタンニスを重ね塗りしました。もう少し楽しんでもらえたら嬉しいですね。

